

ジイジ・バアバ、
パパ・ママへ贈る

心 の め ば え

<18>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

4歳9カ月

ターザンロープ①

子供達の遊園地には、ターザンロープが設置されていることがある。ターザンロープというのは遊具の一つである。二カ所の鉄塔の間にケールが渡されていて、そのケールに取り付けられた滑車にぶら下がったロープにしがみついて滑空するようになっている。ロープの下端には尻当てが付いているものもあり、そこにおしりを乗せて滑空することもできる。

ターザンロープは子供達の間で大人気である。ある日、憩いの森公園のこども広場で、近所のお兄ちゃんやお姉ちゃん達がターザンロープをやっていた。これを見ていたアヤは釘付けになっている。よほど面白そうに見えたのであろう。

ターザンロープで遊んでいた子供達も、ひとしきり楽しむともう飽きたのか、散らばって行ってしまった。ターザンロープはケールの途中でブランブランと揺れている。アヤはこれに近づくと、おそろおそろ触ってみた。先ほどの子供達がやっていたように、手でぶら下がって両足



ではさんでみる。軌道の途中だから勿論動くわけがない。そこで、ジイジが出発点の近くまで引つ張っていつて手を離すと、ジーツと滑空する。にわかにアヤの目の色が変わってきた。アヤ「もつとやつて」と言う。

何度かやつているうちに、とうとう出発点の台の上から滑空できるようになった。滑車の終点にはクッションパネがあつて、ここでビヨーンと跳ね返されるようになっていた。跳ね返されてすぐに降りようとする足を取られるので、ジイジ「最後までつかまっておくんだよ。止まってから降りようね」と言う。上手にそれを守っている。

こうして次から次へと繰り返し、もう30回ぐらい滑空したのであろうか。大人の我々だと、くたびれ果てる頃だろうが、幼児にはそれがどうも分らないらしい。きつともう腕が相当に疲れているはずだ、と思った瞬間、クッションのところで手が離れて、墜落してしまった。慌てて抱き起こしたら、勿論大泣きだ。しかも、あごあたりにちよつと擦り傷も出来た。

本人は気が付いていないのだろうか、あまりにやり過ぎて腕も手も相当に疲れていて、多分握力がなくなつていたのであろう。ジイジがもつと早く気が付いて、20回ぐらいでやめさせればよかったのだ。

家に帰ると、早速ママに報告している。ターザンロープという新型の遊具をマスターした。と。ちよつと失敗して落ちたこと。次から次へと自慢話とはまらない。

翌日のアヤの言動は意外なものだった。次週号へ続く。

プロフィール むたたいぞう 1937年、福岡県生まれ。
九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修了、
理学博士。京都大学助手・助教授、広島大学教授・学長、福
山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀
樹のことば」(丸善出版)、「電磁力学」(岩波書店)、「量子力
学」(裳華房)などがある。東広島市在住。

ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@pressnet.co.jp
「心のめばえ」係

連載中の「心のめばえ」シリーズは、牟田のホームページでも読むことができます。<https://home.hiroshima-u.ac.jp/mutata/>